

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 14 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2012

課題番号：21320093

研究課題名（和文） 留学生大量受け入れ時代に向けた大学における新たな日本語教育スタンダードの構築

研究課題名（英文） Construction of a Standard University Japanese Language Program for the Age of Massive Acceptance of International Students

研究代表者

西口 光一 (NISHIGUCHI KOICHI)

大阪大学・国際教育交流センター・教授

研究者番号：50263330

研究成果の概要（和文）：大学における日本語教育カリキュラムのあり方について、CEFR などの外国語能力記述を参照しつつ、大阪大学における日本語教育のスタンダードとして、6 つの習得段階での各コンポーネントの教育内容と達成水準の記述を行った。それを参照枠としながら以下の開発・研究を行った。

- (1) 自己表現活動中心の新たな基礎日本語のカリキュラムと教材の開発及びそれに関連する研究
- (2) 大学院生の研究活動及び各活動に関連するディスコースの研究とそれらに基づくアカデミック・ライティングとアカデミック・オーラル・コミュニケーションのカリキュラムと教材の開発及び実施と検証
- (3) 社会科学系を専門とする日本語教員による社会科学日本語のカリキュラムと教材の開発的研究
- (4) 日本語教育 IT 支援プラットフォームに関する研究と同プラットフォームの開発

研究成果の概要（英文）： In order to standardize the Japanese language program at Osaka University we have described six levels of Japanese language proficiency having CEFR and other proficiency guidelines as references. With these descriptions as guidelines we have conducted different researches and based on these researches we have developed several Japanese language curriculums and resources as listed below.

- (1) Development of self-expression-based “foundation” (elementary) Japanese language program and materials, and researches in its theoretical and practical aspects.
- (2) Researches in discourses particular in research activities in laboratory settings, and development of curriculums focusing on academic writing and academic oral communication based on the result of the studies.
- (3) Development of JSP curriculum and resources in social sciences by a Japanese language educator with social science background.
- (4) Development of IT platform to assist Japanese language teaching practices.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	5,700,000	1,710,000	7,410,000
2010年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2011年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2012年度	3,100,000	930,000	4,030,000
総計	14,800,000	4,440,000	19,240,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育

キーワード：日本語教育、カリキュラム、専門日本語教育、テキスト相互関連性、IT 支援プラットフォーム、アカデミック・ライティング、アカデミック・オーラル・コミュニケーション、社会科学系日本語

### 1. 研究開始当初の背景

共通基礎教育の中心的な課題は、初級日本語教育の革新とその取り組みを通じた初級段階日本語教育における新たな専門性の確立である。初級日本語教育革新に向けた研究の端緒としては西口（2004）の研究がある。今回は、そうした知見とこれまでの教育経験の蓄積を融合し、さらにバフチンの対話原理（西口 2007、西口 2008a、西口 2008b）を応用して、教育開発活動を通して、初級段階の日本語教育の実践一般における日本語教育学的な諸テーマについて実証的なデータを踏まえつつ考究する。

中級段階の共通基礎教育については、すでに日本語能力試験 N2 と同 N4 に対応する漢字と語いの標準を各々確立した（市販教材西口光一著『例文で学ぶ漢字と言葉』の N2 編と N4 編、スリーエーネットワーク）。N2 部分は、ウェブ上での学習リソースと教師用評価ツールも開発済みである。そのように開発されたリソースを核として、中級段階の共通基礎教育の有効な方法について理論的・実証的に検討する。

一方、専門日本語教育に関しては、2006 年 10 月、分担者 2 名が、海外拠点の大阪大学バンコク教育研究センター開所式の際にチュラーロンコーン大学とタマサート大学の教員と共に、記念セミナー「大学における専門日本語教育の理念と実践」を実施し、関係者と情報交換を行った（三牧・村岡 2006）。また、2007 年 3 月に学内で実施した「第 1 回大阪大学専門日本語教育研究協議会」では、大学院レベルの留学生への専門日本語教育に関して報告し、3 名の留学生指導教員も講演を行い、かつ全体討論を行った。徐々にではあるが、海外の関係教員や大阪大学内の留学生指導教員との連携も深め、また関係の研究も蓄積している。

### 2. 研究の目的

留学生 30 万人時代に向けて、大量の留学生受入れに対応可能な入学準備段階から就職準備までの包括的な日本語学習・教育システムの確立が急務となっている。そのような認識の下、現在の日本語教育と日本語教育学の課題を以下のように措定した。

(1) 相互行為能力の基礎を形成する初級段

階から上級段階までの共通基礎日本語教育の構築

- (2) 大学院留学生のニーズに対応した専門日本語教育の質的・量的な充実
- (3) 日本語教育で共有可能な ICT を活用した教育・学習方法の開発並びにリソースの開発
- (4) ICT を活用した教育と学習の実践と普及
- (5) 高度な革新的日本語教育を担いうる日本語教育者の育成

以上の各課題は、従来の教育基礎的な研究の蓄積、種々の教育実践経験の蓄積の結集、及びそれらの融合があつてこそ達成が可能であろう。本研究の目的は、上記の課題に組織を挙げて実践的に取り組むことで、日本語教育と日本語教育学における新たな専門性の基準を確立することである。

### 3. 研究の方法

(1) 共通基礎日本語教育の開発について

第二言語習得の原理的な研究として、引き続きバフチンの対話原理の応用の可能性について追究する。まず、中級段階の漢字と語いの教育の標準確立とその原理について考究する。次に、本研究の中心である初級日本語教育に取り組む。初級日本語教育とは、相互行為能力（義永 2008）の視点から言うと、コミュニケーションにおいて日本語で全く機能できない入門者を、一定の基礎的な範囲で機能できるように教育することである。そして、教育実践的には、相互行為能力の養成を教育の核に据えながら基本的な文型・文法事項の学習をも取り込みつつ教育のカリキュラムを根本的に再編成することが主たる課題となる。基本的な方向性としては、バフチンの対話原理と関連した間テクスト性（intertextuality, Allen, 2000）概念の応用としての基礎日本語教育及びその原理の確立を目指す。

(2) 専門日本語教育の開発について

1) 理工系研究室における専門コミュニケーションの様相および暗黙のルールである「理工系研究室文化」に関しては三牧（2006）があるが、文系（人文系・社会科学系）研究分野に関する同様の実証的研究はない。そこで、(1) 文系研究分野における研究遂行を目的と

したコミュニケーションのありかたや意識を実態調査によって把握し、その結果もふまえて、(2)理系・文系別に、周囲の人的環境のリソースを活用し必要な情報や助力を獲得しつつ研究遂行しうるアクティブな存在として留学生を位置づけた相互行為能力養成を主眼としたアクション型専門コミュニケーション教育システムを開発する。マジョリティである日本人研究室構成員も参加し双方にインターカルチュラルな気づきを促すタイプの種々のアクティビティも含めることによって、大学コミュニティの国際化に貢献しうる内容とする。

2) レポートや論文、発表要旨等の専門的文書作成のためのライティング教育では、因・村岡他(2007)等の指摘にあるように、テキストの表層的な表現や構造のモデル提示による文章作成練習だけでは十分な効果が上がらない場合が多い。特に研究生や修士課程レベルで論文や研究に関するスキーマを持たない学習者に対しては、同スキーマの形成を促進する方策を講じる必要もある。また、母国の高等教育機関での学習背景が、ライティングへの信念に対し看過できない影響を及ぼしているケースも多い。そこで、本研究期間中は、特に研究留学生のライティング能力育成を目的とした教育システムの再考のために、(1)レディネス調査、(2)スキーマ形成のための新たなタスク開発とそれによるコーパス作成、(3)あらゆるリソースの再点検と自律学習支援について調査研究を行う。それにより、レディネスに応じたライティング教育システムの再構築を検討する。さらに、授業担当者間の情報交換の機会も含めた研修会も実施したい。

3) 社会科学系の大学院進学をめざす中級学習者を主たる対象とした日本語教科書『社会科学専門基礎日本語』(仮称)を開発するとともに、マルチメディアを活用した社会科学系の日本語教育システムを開発し、今後、量的増大が予想される社会科学専攻の留学生に対する効果的な日本語教育の実現を図る。(3) 日本語教育 IT 支援プラットフォームの開発について

他の2班と協同してどのような形での ICT 利用が日本語教育にとって有用かを検討する。具体的には、(1)コンピュータ支援による言語学習の最適な形態、(2)対面授業と ICT による自律学習の切り分け、(3)教員、学習者に対するサポートのあり方、(4)WebCT や KOAN など全学共通のシステムとの連携の可能性、について、国内外の先進的な取り組みを行っている大学と連携して検討する。

#### 4. 研究成果

まず、大学における日本語教育カリキュラムのあり方について、CEFR などの外国語能力記述を参照しつつ、大阪大学における日本語教育のスタンダードとして、6 つの習得段階での各コンポーネントの教育内容と達成水準の記述を行った。

基礎共通日本語教育については、自己表現活動中心の新たな基礎日本語のカリキュラムを作成し、テキスト相互関連性に基づく教材を開発し、本学のすべての基礎日本語クラスで使用を開始した。他に、非漢字系学習者のための N2 までの、学習語彙を限定した新たな漢字教材を開発し、すでに利用している。

専門日本語教育の開発については、専門日本語教育の教育内容の体系化と教育方法についての研究を行った。アカデミック・ライティングとアカデミック・オーラル・コミュニケーションでは、研究活動に関わる各種のライティング活動とオーラル・コミュニケーション活動の研究や論文・レポート等のディスコースについての研究に基づいて、各教育の内容の体系化とカリキュラムの作成とリソース開発を行い、教育実践を行った。社会科学系日本語では、社会科学の背景を有する日本語教員が社会科学系の大学院生に共通的に必要な知識とそれに関わる各種の用語や日本語表現を明らかにしつつ、教材を作成した。

IT 支援プラットフォームの開発については、上記で開発された教育リソースを学習・教育システムとして効率的かつ効果的に運用するべく、IT 支援プラットフォーム“Okini”を開発し、2011 年後期より共用を開始した。さらに、PC 用としてカタカナ自習用 Web アプリケーション、モバイルデバイス用として漢字自習用アプリ「Perfect Master Kanji」を開発し、2012 年度より供用を開始した。

以上のカリキュラム開発、教材開発、教育システム開発については、論文や口頭発表の形で成果を公表している。

#### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 24 編のうち、最終年度作成の研究成果報告書と 2011 年度刊行の論文のみ示す)

① 『科研費研究成果報告書 留学生大量受け入れ時代に向けた大学における新たな日本語教育スタンダードの構築』大阪大学国際教育交流センター、2013.3  
本報告書には以下の 7 編の論文が収められている。

(1) 西口光一 (2013) 「カリキュラム・教材の開発と教育の質保証とプログラム・コーディネータの役割—基礎日本語教育のカリキュラム・教材開発と

- 教育実践の経験から」
- (2) 義永美央子 (2013) 「学習者の特性に配慮した基礎日本語教育のデザイン」
  - (3) 難波康治 (2013) 「日本語教育IT支援班の活動ー日本語教育支援ITプラットフォームOkiniの開発を中心にー」
  - (4) 大平幸・竹内茜・大谷晋也 (2013) 「ウェブを用いた日本語の音韻とカタカナ語 (外来語) 習得システムの実用化と今後の可能性」
  - (5) 三牧陽子 (2013) 「研究留学生を対象とした日本語アカデミック・オーラルコミュニケーション教育ーそのコンセプトとカリキュラム開発ー」
  - (6) 村岡貴子 (2013) 「研究留学生に対する日本語アカデミック・ライティング能力の養成を目指した教育実践ー論文スキーマ形成を通してー」
  - (7) 西村謙一 (2013) 「社会科学系日本語読解教材の開発と教育実践」
- ② 西口光一 (2012a) 「言語活動従事に関与している知識は何かーバフチンの対話論の視点ー」『多文化社会と留学生交流』第16号 大阪大学国際教育交流センター, p.51-62
  - ③ 西口光一 (2012b) 「CEFRの構造と記述文とOUSカリキュラム」『多文化社会と留学生交流』第16号 大阪大学国際教育交流センター, pp.63-72
  - ④ 村岡貴子 (2012) 「研究留学生のための専門日本語ライティング教育の可能性」仁科喜久子監修『日本語学習支援の構築ー言語教育・コーパス・システム開発ー』凡人社, pp.77-90
  - ⑤ 義永美央子・戎谷梓・村岡貴子 (2012) 「大学院研究留学生のための基礎日本語教材の開発ー日本語研修コースにおける実践からー」『多文化社会と留学生交流』第16号 大阪大学国際教育交流センター, pp.73-87

[学会発表] (計 12 件のうち、最終年度に行った主要な 3 件のみ示す。)

- ① 三牧陽子・西口光一・義永美央子・村岡貴子 (2012) 「研究型大学院大学における日本語カリキュラムの開発」日本語教育国際研究大会名古屋 2012, 2012 年 8 月 19 日, 名古屋大学
- ② 西口光一・滝井未来・義永美央子・岡崎洋三 (2012) 「対話原理に基づく基礎日本語教育ー理論と実践ー」日本語教育国際研究大会名古屋 2012, 2012 年 8 月 19 日, 名古屋大学
- ③ 難波康治・角南北斗・藤井正明 (2012)

「日本の大学における日本語教育・学習支援プラットフォーム"Okini"の開発 2」(ポスター発表) 日本語教育国際研究大会名古屋 2012, 2012 年 8 月 18 日, 名古屋大学

[教科書等]

- ① 西口光一・難波康治 (2013) 『Perfect Master Kanji N5-N2 (iOS アプリ)』ナウプロダクション
- ② 西口光一 (2012) 『NEJ : A New Approach to Elementary Japaneseーテーマで学ぶ基礎日本語ー』vol. 1 & vol. 2 くろしお出版
- ③ 西口光一 (2012) 『NEJ : テーマで学ぶ基礎日本語 指導参考書』くろしお出版
- ④ 大阪大学国際教育交流センター (2011) 『A New Approach to Elementary Japanese for Graduate Students』vol. 1 & vol. 2 (学内使用教科書)
- ⑤ 大阪大学国際教育交流センター (2010) 『日本語の漢字』(学内使用教科書)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

西口 光一 (NISHIGUCHI KOICHI)  
大阪大学・国際教育交流センター・教授  
研究者番号 : 50263330

### (2) 研究分担者

三牧 陽子 (MIMAKI YOKO)  
大阪大学・国際教育交流センター・教授  
研究者番号 : 30239339  
村岡 貴子 (MURAOKA TAKAKO)  
大阪大学・国際教育交流センター・教授  
研究者番号 : 30243744  
難波 康治 (NAMBA KOJI)  
大阪大学・国際教育交流センター・准教授  
研究者番号 : 30198402  
西村 謙一 (NISHIMURA KEN-ICHI)  
大阪大学・国際教育交流センター・准教授  
研究者番号 : 40237722  
大谷 晋也 (OTANI SHIN-YA)  
大阪大学・国際教育交流センター・准教授  
研究者番号 : 50294137  
義永 美央子 (YOSHINAGA MIOKO)  
大阪大学・国際教育交流センター・准教授  
研究者番号 : 80324838